

町政を問う

地域を守る防災対策を問う！



災害現場(野上川下流)



一橋 信介

災害に対する住民の心構えと行動は？ 町長 必ず起こると認識し的確な行動を！

一橋 地球環境の変動により、各種自然災害は激甚化傾向にあると認識するが、災害に対する日ごろの準備と、災害発生時住民が取るべき対応について所見を伺う。

町長 近年、災害リスクが大きくなっているのは事実である。災害は起こるものと認識し、被害を最小限に抑えるため、例えば、普段から自治会で危険場所、避難ルートの周知徹底を図り、災害が予想される場合、集落単位でも気象情報等の収集に留意を頂きたい。

行政の支援としては、自治会単位での防災備品の備蓄等に対する支援制度もある。これら事前準備の積み重ねが被害最少化の有効な手段のひとつである。また、災害発生時、町では対策本部を立ち上げるが情報が不足する。住民からの情報が一番頼りになるので、是非、協力を頂きたい。避難勧告も遅れがちとなる。場合により、自主避難も検討頂きたい。

一橋 災害時に取るべき行動についてのガイドブックを作る考えは？

町長 今後、簡単なガイドブックを検討したい。

一橋 シースンの雪害対策の準備状況は？

町長 今までの教訓を踏まえ、対策を強化している。



イノシシ用電柵取付け

地域整備課長 大和リースと除雪協定を締結。昨年度には、大型除雪機一台を新たに導入し、気象情報には十分注意しつつ対応する。

獣害対策の現状は

一橋 今年から本町で立ち上げられたイノシシ対策応援団の現状について伺う。

町長 鳥獣被害は頭の痛い問題。農家の負担軽減のため、何か協力をという思いから始めた対策である。

産業課長 現在の参加人数は4名。活動状況は、電柵取り付け作業を一回行った。
町長 現在は対症療法的な取り組みだが、今後は体系的な取り組みが必要。今後検討したい。